

# 里山資源の活用考える

きんたろう倶楽部 富山でシンポジウム

里山の再生に取り組むボランティア組織「きんたろう倶楽部」（会長・西頭徳三富山大学長）の「森林と人シンポジウム」が22日、富山市の富山国際会議場で開かれ、参加者約300人が里山資源の活用について理解を深めた。北日本新聞社後援。

同倶楽部が来月にNPO法人化するのを記念して開催。基調講演で、鏡森定信富山大

名誉教授が「自然を利用した健康づくりとその医学効果」と題し、傷病の治癒促進や健康増進を図る療法として水・温泉療法や地形気候療法などを説明。朝日を見たり、高原で日光浴をすることが交感神経系を刺激してリラクゼーションや熟睡促進につながることを紹介した。

シンポジウムでは、鏡森名誉教授がアドバイザーを務



里山の活用について意見を交わしたシンポジウム―富山国際会議場

め、同倶楽部副会長の山本茂行富山市ファミリーパーク園長、九里徳泰県立大教授、加藤佳子同市古沢小学校長、本田恭子アースアイとやま実行委員会長の4人が里山資源の活用や残すべき里山資源などについて意見を交わした。